

I. 外部評価の概要

1. 外部評価の目的

寄附研究部門（鳥獣対策研究部門）は、岐阜県と岐阜大学との協定に基づき、野生動物総合対策推進事業として同大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター内に設置された。期間は平成24年5月1日から平成29年3月31日（4年11か月）である。同部門外の有識者に外部評価委員を委嘱し、本事業に関する評価を行った。

2. 外部評価委員

氏名	所属・職
梶 光一	東京農工大学大学院共生科学技術研究院 教授
横山 真弓	兵庫県立大学自然・環境科学研究所／兵庫県森林動物研究センター 教授
後藤 賢也	岐阜県環境生活部環境企画課 課長
酒井 明彦	岐阜県農政部農村振興課鳥獣害対策室 室長
岩月 保樹	岐阜県林政部森林整備課 課長
下平 典良	郡上市農林水産部 部長
今井 藤夫	下呂市農林部 部長
伊藤 栄一	岐阜大学地域協学センター 地域コーディネーター
杉山 誠	岐阜大学応用生物科学部 学部長

3. 外部評価会

開催日：平成29年5月16日13時～16時

場 所：岐阜大学 応用生物科学部 第1-A会議室

出席者 【外部評価委員】

梶 光一、横山真弓、後藤賢也、中田恵美（酒井委員の代理）、岩月保樹、下平典良、今井藤夫、伊藤栄一、杉山誠

【岐阜大学関係者】（外部評価実施時）

鈴木正嗣（野生動物管理学研究センターセンター長）、浅野玄（野生動物管理学研究センター副センター長）、森部絢嗣（寄附研究部門特任准教授）、池

田敬（寄附研究部門特任助教）、原口句美（寄附研究部門研究支援員）、桐井英幸（岐阜県環境生活部環境企画課／岐阜大学駐在）、白川拓巳（岐阜県環境生活部環境企画課／岐阜大学駐在）、金竹克広（応用生物科学部事務長）

Ⅱ. 外部評価の方法と評価項目

外部評価方法は、外部評価委員に巻末の「付録 外部評価資料」を事前に送付すると共に、外部評価委員会を平成 29 年 5 月 16 日に開催し、資料に基づいて説明および質疑応答を行い、後日評価判定書を作成して送付いただいた。

【外部評価項目】

- ・ 全体評価
- ・ 1 野生動物管理の現状と課題に関する研究
 - (1) 捕獲個体分析
 - (2) アンケートによる狩猟者意識調査
 - (3) 狩猟者アンケートの追跡調査
- ・ 2 理想的な野生動物管理システムに関する研究
 - (1) 有害鳥獣捕獲箇所把握の精度向上
 - (2) ニホンジカの森林被害モニタリングの活用
- ・ 3 効果的な野生動物管理手法に関する研究
 - (1) ニホンザルの生息調査及び対策指針の作成
 - (2) わな捕獲モデル事業の技術支援及びフォローアップ
 - (3) 指定管理鳥獣捕獲等事業の効果検証及び情報収集
 - (4) 乗鞍のツキノワグマ及び利用者に関する調査
- ・ 4 野生動物管理に係る事業に対する政策提言
- ・ 5 野生動物管理の人材育成プログラムの策定と普及
 - (1) 人材育成 既存プログラムの活用
 - (2) 鳥獣害対策専門指導員等研修教材の開発
- ・ 6 県内教育機関との連携による教育の充実と活性化
 - (1) 広く県民を対象とした野生動物管理に関する普及啓発
 - (2) 教育機関との連携

Ⅲ. 外部評価の方法と結果

平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日までの活動成果について、平成 29 年 5 月 16 日の外部評価会において外部評価委員に対して寄附研究部門関係者によるプレゼンテーションを行った。外部評価委員には、所定様式に従い研究課題ごとの達成度評価と評価コメントをいただいた。

全体評価

評 価 委 員	評 価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A	○		
評価委員 B	○		
評価委員 C	○		
評価委員 D		○	
評価委員 E	○		
評価委員 F	○		
評価委員 G	○		
評価委員 H	○		
評価委員 I	○		

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・この5年間でモニタリングの基盤をつくることができたことは十分に評価できる。
- ・今後は管理の評価を行うために、個体群モニタリングに注力してほしい。
- ・膨れ上がる鳥獣害に対して、県・市町に対して、適切な方向性と対策手法を提案しており、全国的に先進的な取り組みと評価できる。立ち上げの5年間としては、必要なネットワークを築き、必要な情報が収集される仕組みの基礎が構築されてきている。今後はさらにこの情報ネットワークを強固なものにし、重要なデータを提示し、関係者間の意思決定を速やかに行い施策に反映する仕組みの構築を期待する。
- ・県の野生動物管理政策に対して、専門的、学術的視点から継続的に支援、助言していただくことにより、施策推進に大きく寄与していただいた。
- ・科学的な評価に基づいて、施策の提案・助言がなされた。当初の目標値的なものがあると、より評価がしやすい。
- ・野生鳥獣被害に関する現状と課題を科学的に調査・分析されると共に、地域産業に寄り添う形で、分かり易く適切な施策提言等が行われています。

- 短期間で多岐にわたる分野において効果的な調査研究がなされており高く評価します。専門的な調査研究を根拠とする助言、指導は、現場で捕獲や防止対策に従事する者にとっても大きな効果をもたらしています。
- 行政と研究機関（大学）が連携した「岐阜モデル」として定着し、成果をあげていることは、おおいに評価できる。
- 学術的根拠に基づく政策提言を受けることで、行政の行う施策・事業を後押しする効果も大きいと考えられる。
- 限られた年限の中で素晴らしい成果を上げてきていると思います。
- 鳥獣害に関連して、その生態、被害状況、対策にあたる人材の状況、有害獣捕獲実態、人材育成等、多岐にわたり活動を進め、多くの成果を得たことに対し高く評価したい。さらに、これら活動をまとめた政策提言は、貴重な資料であり、次の具体的な施策を考える上で極めて有効であると考えられる。

1 野生動物管理の現状と課題に関する研究

(1) 捕獲個体分析

評 価 委 員	評 価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A		○	
評価委員 B	○		
評価委員 C	○		
評価委員 D		○	
評価委員 E	○		
評価委員 F	○		
評価委員 G	○		
評価委員 H	○		
評価委員 I	○		

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・イノシシ個体群の遺伝的構造を明らかにしたことは高く評価できる。一方で、イノシシでは捕獲個体の性・年齢クラスおよび、猟法によるこれらの選択制や捕獲努力量を求めていく必要がある。
- ・シカでも捕獲個体の性・年齢構成を示すべき。
- ・イノシシに関する分析は非常にユニークなものであり、県内のイノシシの分布状況を解明している。管理方針へも十分貢献している。今後は、シカやツキノワグマなどの分析を進めてほしい。
- ・イノシシの個体群の分布状況等を把握できた。今後、継続的なモニタリング体制の整備について検討いただきたい。
- ・イノシシによる農業被害軽減につながるようなモニタリング体制の整備に期待する。
- ・個体群構造の分析結果が県民に公表され、農林業者以外にも理解、関心が深まったと思います。
- ・今後、ニホンジカについても構造分析を進めて頂くと良いと思います。
- ・ニホンジカ、ニホンザル等による農林産物への被害が拡大しており今後、イノシシ以外の野生動物についても調査を望みます。
- ・これまでにない基礎データとして、おおいに評価できる。しかし、本調査（分集団と地理的な境界）の学術的な成果が、獣外対策にどうつながっていくかを、明確にされていくと良いように思います。
- ・科学的な手法により明らかにした県内のイノシシの生態は、有効なイノシシの管理を考

える上で重要な基礎的知見になると考えられる。今後、同様な手法が、県内で問題となっているニホンジカやニホンザルに応用されることを期待したい。

(2) アンケートによる狩猟者意識調査

評価委員	評価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A		○	
評価委員 B		○	
評価委員 C	○		
評価委員 D	○		
評価委員 E	○		
評価委員 F		○	
評価委員 G	○		
評価委員 H		○	
評価委員 I		○	

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・現状分析は良く実施されている。
- ・今後重要性を増す捕獲者をどのように育成し、配置していくべきかというのは重要な案件であるが、これらを再構築していくために、現状の狩猟者の状況は、重要である。これらに重要な示唆を与える内容が盛り込まれている。ただし、今後は、定期的な調査になることを見越し、行政的なアンケートに移行することも検討する必要がある。
- ・狩猟免許受験者の意識調査により、県の新規施策「捕獲技術習得実地研修制度」立案につながった。
- ・県内の狩猟者の年齢構成や、狩猟歴別の捕獲の有無についてわかりやすくまとめられており、また、今後の施策にも反映されている。
- ・狩猟者意識の現状把握は、今後の狩猟者の確保・育成につながる重要な第一歩であると思います。
- ・狩猟者を補填する潜在力、狩猟歴別の狩猟期間の捕獲の有無、について、免許取得年齢、取得目的、今後の活動見込み年数などとクロス集計してみると別の課題も見えてくるように思いました。
- ・寄付研究部門設置以降の調査結果であることは致し方ないことかと思いますが、現況を解析するうえでは、過去の動向の把握も必須かと思えます。過去にさかのぼれる調査があれば、比較すると良いと思います。
- ・鳥獣害対策の現場にいる狩猟者の意識調査は重要であることから、結果は貴重な情報と考えられる。狩猟者を増やすために必要な方策を考えるため、彼らが具体的に求めていることに関する情報が解析できると良かった。

(3) 狩猟者アンケートの追跡調査

評価委員	評価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A		○	
評価委員 B		○	
評価委員 C	○		
評価委員 D		○	
評価委員 E	○		
評価委員 F		○	
評価委員 G	○		
評価委員 H		○	
評価委員 I		○	

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・ 狩猟者の育成の施策の方向性とは何かを明確にしてほしい。
- ・ 追跡調査は重要であり、現状では適切な研究内容である。しかし上記（２）と同様に今後は、研究的な要素というよりは、行政的なアンケートに移行することも検討する必要がある。
- ・ 狩猟免許取得者定着対策に必要な情報を提供いただいた。
- ・ 狩猟者の確保・育成に繋げるため、新規狩猟免許取得者の中で「更新しなかった理由」を明らかにする等、継続的な調査を望みます。
- ・ また新規狩猟者定着の観点から、「既存組織」（例えば「猟友会」）の調査も併せて行うと良いと思います。
- ・ 捕獲できない狩猟者の問題点として、捕獲技術の指導の必要性や技術講習会等への参加が少ないことを挙げていますが、これ以外に、捕獲に係る経費や手間、他の狩猟者との調整等の問題はないか、分析を進めてほしい。
- ・ わな免許よりハードルの高い猟銃免許取得者をどう増やしていくかが現実的な課題であり、そのための政策提言に向けたワーク部会なども検討されてはと思います。（警察等も含めて）
- ・ 更新しない人の意識や行動を把握することも大切かと思えます。アンケート調査にとどまらず、聴き取り調査等も併用してはどうでしょうか。
- ・ 狩猟者を増加させるためには、このような追跡調査は有効と考えられる。今後は実際に現場で起きている問題を明らかにするようなアンケート調査が望まれる。

2 理想的な野生動物管理システムに関する研究

(1) 有害鳥獣捕獲箇所把握の精度向上

評 価 委 員	評 価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A	○		
評価委員 B	○		
評価委員 C	○		
評価委員 D	○		
評価委員 E	○		
評価委員 F	○		
評価委員 G	○		
評価委員 H	○		
評価委員 I	○		

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・有害鳥獣許可情報の効率的な収集とアウトプットが可能となった。
- ・重要なデータを収集する体制を構築している。とりわけ捕獲情報は、個体数推定にも有益であるため、さらに詳細データを収集する仕組みを構築してほしい。
- ・有害鳥獣許可捕獲情報登録シートの作成は、今後の野生動物生息状況のデータ収集、分析に大きな効果を発揮できる。
- ・データ提供者及び収集者の負担をできる限り減らし、データの蓄積及び活用がなされている。
- ・事務手間をかけない形で捕獲情報を管理することができるなど、実務的配慮がなされていると思います。
- ・情報の一元化・見える化等、おおいに成果があったと思われます。今後、更なる精度の向上と有効活用を進めていただきたいと思います。
- ・県内の捕獲データを一括して整理し、解析出来るようにしたことは評価できる。今後、ニホンジカ以外の動物への応用を期待したい。

(2) ニホンジカの森林被害モニタリングの活用

評 価 委 員	評 価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A	○		
評価委員 B	○		
評価委員 C	○		
評価委員 D		○	
評価委員 E	○		
評価委員 F	○		
評価委員 G	○		
評価委員 H	○		
評価委員 I	○		

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・SDR を 2 度実施し被害状況の変化の把握を実施したこと、ならびに SPUE との比較が実施できたことは十分に評価できる。今後は捕獲の効果測定に用いてほしい。
- ・ニホンジカの高密度化による深刻な影響を適切に解明している。捕獲促進による低密度化が達成された後も長期的なモニタリングにより、岐阜県における適正密度の解明につながると考えられるため、継続する体制整備を構築してほしい。
- ・新たな森林被害把握方法を開発するとともに、県職員による継続的なモニタリング実施を可能にした。
- ・「下層植生衰退」以外の森林被害として、今後、産業振興を目的とした人工林における「立木の剥皮や捕食」についても調査、助言されることを望みます。
- ・下層植生衰退度は分かりやすい。捕獲とのクロスによるデータも有効。更なる精度向上に向けて、森林組合・森林管理署等から、情報を入れることも検討してみてはどうか。
- ・下層植生のみでなく、植生全体への影響についても検討すると良いのではと考えます。

3 効果的な野生動物管理手法に関する研究

(1) ニホンザルの生息調査及び対策指針の作成

評価委員	評価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A	○		
評価委員 B	○		
評価委員 C	○		
評価委員 D		○	
評価委員 E	○		
評価委員 F	○		
評価委員 G	○		
評価委員 H	○		
評価委員 I	○		

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・モニタリング体制は十分にできている。さらに、対策の評価がきちんとできるような体制を作ってほしい。
- ・ニホンザルの深刻な被害状況と群れの拡大の様子が可視化されている。群れ数が多い状況から必要なコストや労力を判定し、今後のニホンザル対策の基盤を構築できる内容と評価できる。
- ・県のニホンザル被害対策指針を確立できた。今後、県内の各集落における取り組みに対しても継続的に支援いただきたい。
- ・特になし
- ・今後の課題と予定に示されているように、大型囲い罠等の捕獲状況と防除効果の検証を進めてほしい。
- ・県内のニホンザルの生息状況を把握し、被害対策として同指針と点検のためのチェックシートを作成した点は高く評価できる。今後、これらの効果を検証することにより、指針等の改善が期待される。

(2) わな捕獲モデル事業の技術支援及びフォローアップ

評 価 委 員	評 価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A	○		
評価委員 B	○		
評価委員 C		○	
評価委員 D		○	
評価委員 E	○		
評価委員 F		○	
評価委員 G	○		
評価委員 H	○		
評価委員 I		○	

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・罟捕獲にあたって課題を明確にできたことは十分に評価できる。
- ・罟捕獲のフォローアップは捕獲者の育成に非常に重要な取り組みであり、他地域のモデルとなるため、さらに発展を期待している。
- ・地域における対応にばらつきがあることから、引き続き、支援をお願いしたい。
- ・狩猟者の育成と合わせて、地域住民が主体となって捕獲を進める体制の支援をお願いしたい。
- ・地区によって捕獲数にバラツキはあるものの、わな捕獲が有効手段であると認識できましたので、今後、一層の効果を上げるための条件整備についての助言を望みます。
- ・捕獲頭数のバラつきは、天候の影響や狩猟開始が遅れたことが要因とされていますが、技術的な課題はなかったのか等、さらに要因分析を進め、捕獲頭数の向上ための支援をしてほしい。

(3) 指定管理鳥獣捕獲等事業の効果検証及び情報収集

評価委員	評価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A	—	—	—
評価委員 B		○	
評価委員 C		○	
評価委員 D	—	—	—
評価委員 E	—	—	—
評価委員 F	—	—	—
評価委員 G		○	
評価委員 H	○		
評価委員 I		○	

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・自己評価は今後実施する予定なので、コメントは出さない。
- ・今後の取り組みとなる点であるが、準備を着々と進めていると評価できる。指定管理鳥獣捕獲等事業を適切に検証する取り組みとして期待している。
- ・指定管理鳥獣捕獲等事業については課題が多く、効果的な実施方法、効果検証手法について、引き続き、支援、助言をお願いしたい。
- ・特になし
- ・環境省よりマニュアルが提示され、県独自のマニュアル作成を見送っており、自己評価の達成率も未記載となっているため、本項目についての評価は控えます。

(4) 乗鞍のツキノワグマ及び利用者に関する調査

評 価 委 員	評 価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A		○	
評価委員 B		○	
評価委員 C	○		
評価委員 D		○	
評価委員 E		○	
評価委員 F		○	
評価委員 G		○	
評価委員 H	○		
評価委員 I		○	

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・なぜ乗鞍のツキノワグマなのかについての背景説明が不足していた。今後の位置づけについては検討課題。
- ・観光客や登山者、入山者に対するツキノワグマ対策は喫緊の課題である。情報が浸透していない様子が浮き彫りになっている。これらの結果を踏まえた普及啓発の取り組みを構築する材料としては、評価できる。
- ・乗鞍はツキノワグマ出現頻発地域であり、観光地における注意喚起、非常時対応について重要な示唆が得られた。
- ・利用者への安全、安心の確保の観点から、今後、体制づくりに繋がることに期待します。
- ・クマについては、命に係わる人身被害が懸念される。今年も高山市市街地に出現し3人がケガをした。毎年のように発生しているクマによる人的被害の状況を集約し、出あったときの対処方法、従来と異なるクマの行動などを周知していく必要はないのでしょうか。
- ・一般の観光地等へも被害防止策等が敷衍できるよう取り組まれると良いと考えます。
- ・事故を契機に実施した調査とことから、この結果については一定の評価をしたい。一方で、活動全体のなかでの位置付けが良くわからなかった。クマによる被害対策と考えるなら、乗鞍に限定するものではないと考える。

4 野生動物管理に係る事業に対する政策提言

評価委員	評価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A	○		
評価委員 B	○		
評価委員 C	○		
評価委員 D		○	
評価委員 E	○		
評価委員 F	○		
評価委員 G	○		
評価委員 H		○	
評価委員 I	○		

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・多岐にわたる項目にわたり詳細な事業提言を実施している点が十分に評価できる。
- ・鳥獣害対策の行政的な方針が定まらない自治体が多い中、寄附講座による適切な政策提言が行われ、岐阜県の行政機関への還元が行われている。このようなシンクタンク機能がなければ、岐阜県の鳥獣害対策はここまで進んでこなかったと考えられるため、貢献度は高く評価される。
- ・県の野生鳥獣保護管理事業計画や、第2種野生鳥獣管理計画等の策定に対して、専門的視点から支援、助言いただいた。
- ・その他、日々発生する野生動物対策に対して、適切な助言をいただいた。
- ・科学的評価に基づいた施策の提言・助言が行われた。
- ・特になし
- ・行政において施策・事業を進めようとするとき、学術的なバックボーンがあることは強い後押しとなると思われる。今後も積極的な政策提言を期待します。
- ・本部門の役割であるかどうか分かりませんが、政策・施策の効果検証をする必要があるように思います。
- ・多岐にわたる一連の活動をまとめ、成果とともに考察を行い、提言まで行っていることは、高く評価したい。

5 野生動物管理の人材育成プログラムの策定と普及

(1) 人材育成 既存プログラムの活用

評 価 委 員	評 価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A		○	
評価委員 B	○		
評価委員 C	○		
評価委員 D		○	
評価委員 E	○		
評価委員 F	○		
評価委員 G	○		
評価委員 H		○	
評価委員 I	○		

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・プログラムの評価をする仕組みが必要。
- ・鳥獣害対策には、多様な主体の育成が必須である。これらのニーズに適切に対応したカリキュラム開発と、教育実践としては、先進的な取り組みである。
- ・積極的な人材養成プログラムを展開していただいた。
- ・今後、専門的職能的捕獲者の養成確保のプログラム開発と実践についても展開をお願いしたい。
- ・特になし。
- ・「課題」でも記載していただいているように、より多くの人々に伝えるための手法を検討する必要があると考えます。

(2) 鳥獣害対策専門指導員等研修教材の開発

評価委員	評価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A		○	
評価委員 B	○		
評価委員 C	○		
評価委員 D		○	
評価委員 E	○		
評価委員 F	○		
評価委員 G		○	
評価委員 H	○		
評価委員 I		○	

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・教材を使用したものからの評価を実施し、フィードバックをする仕組みが必要。
- ・鳥獣害対策には、多様な主体の育成が必須である。これらのニーズに適切に対応したカリキュラム開発と、教育実践としては、先進的な取り組みである。
- ・引き続き、専門指導員の実践的な教材開発を進めていただきたい。
- ・林業普及指導員も活用させていただきます。
- ・研修教材を開発したことは評価できるが、実際の資料の提示がなかったため、内容に関して評価ができなかった。今後、これら教材の効果を検証して欲しい。

6 県内教育機関との連携による教育の充実と活性化

(1) 広く県民を対象とした野生動物管理に関する普及啓発

評 価 委 員	評 価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A	○		
評価委員 B	○		
評価委員 C	○		
評価委員 D		○	
評価委員 E	○		
評価委員 F	○		
評価委員 G	○		
評価委員 H		○	
評価委員 I	○		

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・多様な対象に幅広く実施している点に、十分評価できる。
- ・意思決定には一般市民の理解も欠かせない。特に捕獲という行為を理解してもらうための取り組みは重要であり、これらに適切に対応した普及に尽力している。
- ・積極的に県民向け普及啓発事業を実施していただいた。引き続き、実施していただきたい。
- ・野生鳥獣被害は社会問題であるとして、農林業者だけでなく、多くの一般県民にも理解が深まったと思います。
- ・今後の方向性として、住民主導を進めるためには、小さな集落での話し合いを重ねるなどの取り組みが不可欠となる。セミナー・研修会などのあり方も、そうした方向性を進めるものに変化してくるようになる。
- ・より広く伝えていくために、様々な手法をご検討願います。例えば、広報活動のノウハウを外部から導入する。一般向け出版物の発行などの検討。など
- ・非常に多くのシンポジウム、セミナー、研修を実施し、多くの参加があったことは高く評価できる。また、出版、マスコミ等を通じての啓発活動も活発に行っている。

(2) 教育機関との連携

評価委員	評価		
	十分に評価できる	評価できる	不十分である
評価委員 A	○		
評価委員 B		○	
評価委員 C	○		
評価委員 D		○	
評価委員 E	○		
評価委員 F	○		
評価委員 G	○		
評価委員 H		○	
評価委員 I	○		

◆評価コメント（ご助言ならびに今後の展開や実施体制等に関わるご提案等）

- ・十分な活動を実施している。
- ・相手方の教育体制とのかかわりも大きいため、長期的な視野に立った取り組みが必要になるが、それらに向けた対応として適切な取り組みである。
- ・今後、高校等への普及啓発のさらに積極的な関与、介入により、若年層からの捕獲者確保養成を支援いただきたい。
- ・講習受講者から高い評価が得られていますので、今後も継続して頂きたいと思います。
- ・教育機関との連携は、組織間の役割分担など難しい面が多々あると思いますが、まだまだ、やれることがあるように思います。
- ・教員免許状更新講習を活用した啓発活動は、小中学校の教員が地域の教育の核となっていることから非常に効果的であると考えられる。受講した教員を介して、さらなる活動の進展を期待したい。

その他、ご意見やご助言

- ・持続的な野生動物管理を実施していくためには、第2期においては管理の評価のためのモニタリングに注力してほしい。
- ・岐阜県と岐阜大の寄付講座による野生動物管理拠点の形成は、「岐阜モデル」と名称づけることができる、とてもユニークで価値ある試みである。今後の発展方向として、大学修士課程に野生動物管理プログラムをもって、野生動物管理専門官を輩出する基盤形成を検討していただきたい。
- ・ここまでの基盤構築を行ってこられたことに敬意を表します。今後は、全国的にも発信可能な岐阜モデルの取り組みとして、さらなる飛躍を期待しています。
- ・専門的知見から、引き続きご助言・ご指導及び県施策へのご協力をお願いします。
- ・林業の成長産業化のためには、野生鳥獣（とりわけニホンジカ）の対策は重要課題です。森林法改正等により、今後、市町村森林整備計画や森林経営計画にその対策を反映し実行することが求められます。実効性を高めるために引き続き助言をお願いします。
- ・外部評価委員会で意見がありましたように、外部評価する上で、事業ごとに成果目標の指標が数値化されていないため判断に迷う点がありました。目標指標の数値化を望みます。
- ・岐阜県と岐阜大学との協定に基づいて鳥獣対策研究がなされて、このように成果を上げていることをより広く周知し、多くの県民が鳥獣被害防止対策に関心を持っていただけるような取り組みも必要だと思います。
- ・住民主導の方向性の中で、集落によっては、高齢化・人口減等で、取り組みが困難な地域もあります。鳥獣被害により、農地が農地でなくなり、被害額として上がってこない現状も個々には見受けられます。（具体的な数値として捉えることは難しい。）物理的な損害だけでなく、被害により耕作をあきらめる耕作者に与える精神的な被害が、住民主導の取り組みを阻害する要因になることを懸念する。
- ・防護柵の普及が進んだことにより、下層植物がなくなり、表土が流出し根が露出する。直接的に木の表皮がめくられるなどの森林被害が増加傾向にあるとも聞きます。農地被害だけでなく、林地被害にも目を向けることが、今後、求められるように思います。
- ・これまで5年を踏まえ、これからは、明らかな成果を求める意向が強まっていくと思われます。住民の求める明らかな成果とは、被害の減少対策と個体の減少対策。被害の減少は、様々な施策である程度可能であっても、個体の減少については困難。できることできないこと。できない理由。できることを進める方法。効果。等々、市民に納得のいくリーダーの育成が必要と思われます。
- ・被害の低減に向けては、社会や産業の構造的問題も根深くあると思います。そうした面への社会学的アプローチも重要かと思います。本研究部門で直接取り組む課題ではないかもしれませんが、広範な視点で鳥獣被害対策に取り組めるよう、幅広い連携を考えていかれると良いのではないかと考えます。こうした連携によるひろがりの必要性は、「広報活動」の面でも有効かと思います。せつかくの成果が、より有効に機能するよう取り組みの

幅を広げられることを期待します。